

令和2年

# 敬老作文集

敬老作文コンクール入賞者の表彰と最優秀賞を受賞された方からの朗読発表が、今年も敬老式会場で行われました。

義務教育学校2年生、5年生、8年生を対象として敬老作文の応募をいただき、全体から最優秀賞1点、2年生、5年生、8年生それぞれから優秀賞3点ずつの計10点の入賞作品が決まりました。

入賞された方々の敬老作文を、ご紹介します。

## 最優秀賞

愛いっぱい私の祖父母

義務教育学校8年 貝田結夏



貝田 結夏 さん  
(街道)

私の祖父母は、いつもニコニコしている。前に一度、「どうしていつも笑っているの。」と聞いてみたことがある。そうすると祖父は、とびつきの笑顔で「ゆいちゃんが好きだから。」と答えてくれた。そんな優しくてかわいい二人が私も大好きだ。

私は小さい頃から、年の離れた兄達が試合だったり親が忙しかったりと、よく祖父母の家にお世話になってきた。でも、同じ家に住む家族とずっと一緒にいけないことが、幼い私にとってはとても辛

くさみしいことだった。その八つ当たりから、私はよく祖父母に反抗して困らせていた。私の事を思ってくれた行動にも文句を言い、たくさん悲しい思いをさせてしまった。ごめんなさい。今では心からそう思う。

私の祖父母はとても仲がいい。よく言い合いもしているけど、気付けば仲直りしている。前に一度、祖父に「おばあちゃん愛してるって伝えて来て。」と言われたことがある。自分の口で言うのは恥ずかしいらしい。私が幼い時の出来事だけど、なぜかよく覚えている。お互いに照れ屋だけど、心の底からお互いを愛している。そんな関係がとても素敵で、私も将来、そんな風になりたいと思った。たくさん迷惑をかけてきたけど、いつでも私の味方でいてくれる、愛であふれた祖父母が私は大好きだ。そんな二人にいつまでも長生きしてほしい。

## 優秀賞

パワフルおばあちゃん

義務教育学校2年 伊藤匠真



伊藤 匠真 さん  
(上村)

ぼくのおばあちゃんは、やさしいおばあちゃんです。いつもぼくとあそんでくれます。ぼくが学校からかえってくると、いっしょにバトミントンやボールあそびをしてくれます。

それだけではありません。ぼくがスケートボードのつてあそんでいると、「おばあちゃんものせて。」と言ってスケートボードのつたら、すべてしりもちをついてしまいました。だけどおばあちゃんは、にこにこわらっていました。

ぼくがポッピングであそんでいると、「おばあちゃんにもやらせて。」と言ってポッピングにのっただらバランスをくずしてころんでしまいました。

ぼくはびっくりしました。

頭に大きなたんこぶができたけどおばあちゃんは「いてて。」と言ってやっぱりわらっていました。

ぼくは、そんなパワフルなおばあちゃんが大好きです。

おばあちゃんは本当に元気で毎日ほたけのやさしいおせわをしています。おばあちゃんがつくったやさしいは、お店で買ったやさしいよりもおいしいです。

ぼくはピーマンがにがただけど、おばあちゃんのはただでとれたピーマンはたべられます。

ぼくが大きくなったら、こんどはぼくがおばあちゃんにやさしくしたいです。おばあちゃんのやさしいをたくさんたべて力もちになつて、もしおばあちゃんが歩けなくなったら、おばあちゃんをおんぶ

しておさんぽにつれて行ってあげたいです。

いつもやさしかったおじいさん

義務教育学校二年 鈴木太智



鈴木 太智 さん  
(新 間)

ぼくのおじいさんはやさしくていつもだっこしてくれるおじいさんです。でも一年生のときびょうきになつてしまいました。

おじいさんの思い出は、一年生の夏に、プールに行ったかえりにいっしょに、ソフトクリームをたべたことです。すこしむずかしい顔をしていました。

ほいく園のとき、すきなおもちゃをいっぱい買ってくれました。うれしかったことをよくおぼえています。

おじいさんのしごとばで、すきな、キャラクターを、いろいろな木のみとせつちやくざいでつくりました。

ぼくが赤ちゃんのときいっばいだっこをしてくれたことを、お母さんから聞きました。

ほいく園のとき、アメをとるゲームをしてくれました。アメがあまくておいしかったです。

おじいさんのすきなたべものはカツ丼です。「やわらかくておいしい。」と、言っていました。

いっしょにドライブに行こうと言ってくれました。風が気持ちよかったです。

今は、おじいさんのしゃしんにむかって、せんこうを立てて、お母さんとおばあさんと、いっしょにおがんでいます。

これから、見まもってください。

ぼくのおばあちゃん

義務教育学校二年 鷺谷 昊祐生



鷺谷 昊祐生 さん  
(海 老 沢)

ぼくは、おばあちゃんといっしょにすんでいます。おばあちゃんは今もうすぐ七十五さいになりますが、いつもぼくとあそんでくれるし、まだ元気にはたらいしています。

田んぼのおしごとがんばっています。朝早くから夜おそくまでけいトラックで出かけてはたらいしています。

田んぼでは土入れ、たねまき、田うえ、草かり、水の見まわり、いねかりまで、いつもいそがしくしています。

だから今年は、ぼくもたねまきと田うえを手つだいました。



をしていると、おじいちゃんがきてくれて、とてもうれしかったです。おじいちゃんの家に行った時も、じゃんけんをしたり、いっしょに遊んでくれます。夜ごはんでは、やきにくを食べたり、お肉をくれて、すごくすごくやさしいです。

おばあちゃんは、とても料理が上手です。おばあちゃんの料理では茶わんむしがとても上手で、買ってきた茶わんむしよりもおいしかったです。おばあちゃんが作る料理が、わたしは大好きです。おばあちゃんは、もう一つ上手なことがあります。それは、手芸です。おばあちゃんは手芸がとてとても上手で、いっしょに、バックや、ポーチを作ったりしています。わたしは今年から、家庭料がはじまりました。最初は手ぬいで、おばあちゃんに小さいころから手ぬいで物を作ったり、ぬい方を教えてもらっていたので、とてもすらすらできて、うれしかったです。わたしは、そんな、おじいちゃん、おばあちゃんが大好きです。いま

までわたしのことをしんばいしてくれたりしていたので、これから、おじいちゃんおばあちゃんを大切にしていきたい、楽しい生活をしていきたいと思います。

### 勇気を出して

義務教育学校五年 竹田 光希



竹田 光希 さん  
(坂 本)

わたしは、もういつのことか、忘れたけれど、小さいときに、乗っていたバスに、お年よりが乗ってきました。バスの中は、ほとんど、あいている席がありませんでした。わたしは、「席をゆずらなきゃ。」と思って、お母さんのとなりにいこうと思いましたが、でも、「ほかの人がゆずるかもしれない。」と、正しきに、席をゆずることができませんでした。その

後、年上の人が、お年よりに席をゆずって、お年よりは、席にすわりました。「どうして席をゆずれなかったんだろう。」お年よりの人は、席にすわられたけれど、わたしは少し、もやもやした気持ちになりました。今でも、あのときのことをわすれられません。勇気を出せずにいるわたしとちがつて、席をゆずった年上の人が、すごくやさしくて、カッコいい人だと思いました。

今、もしバスや電車にのついで、お年よりが乗ってきたとしても、席をゆずろうとして、立ち上がれないかもしれない。でも、席をゆずることは、はずかしいことでも、悪いことでもないことは、ほとんどの人が知っていると思います。でも、それでも席をゆずったりできないのは、勇気がたりないからだ、わたしは思います。勇気がたりなくて、動けないでいて、あともやもやした気持ちになつてしまうのは、席をゆずること以外でも起こることです。これからも、いろいろなときに、お年

よりに、親切にしなければいけない。もしくは、したほうがいいときがあるかもしれません。もしそのときに、親切にできたらすごいけれど、できないときも、一回はあると思います。でも、人生で一度きりしか、チャンスがないこともないと思います。一度失敗したら、次のチャンスをのがさない。そのくりかえしだと思います。わたしも、勇気を出して、がんばろうと思います。

### 僕の大好きな野球の神様

義務教育学校八年 安保 和真



安保 和真 さん  
(綱 木 沢)

僕の祖父母は僕の試合があるとほぼ毎回応援にきてくれます。祖父母が応援にくると、不思議となぜかヒットが打てる様になりま

す。気持ちの問題かもしれませんが自然といいイメージがもてるようになります。つい最近も祖父祖母のおかげで（？）中総体の大事な場面で優勝を決めるサヨナラヒットも打つことができました。

僕の家は祖父祖母の隣にあるので僕が自主練をするときは短い時間でも必ず見に来てくれます。そのときいつも何かしら声をかけてくれるので「今日はもう終わろうかな…」と思つたときにその言葉を思い出すともうひと頑張りすることができます。それは野球を始めた小学四年生からずっと続いています。その間に野球に対する気持ちや物事に対しての意識は色々変わりましたが祖父祖母からの気持ちは野球を始めてからの5年間で一回も変わったことはないです。最後に、僕の好きなプロ野球選手が野球の神様はいつも身近にいて見守ってくれていると言っていました。僕はその言葉を初めて聞いた時、すぐに祖父祖母の顔が浮かんできました。僕はそのときに、祖父祖母に支えられているのを改め

て感じる事ができました。そのせいか試合や大会のときにはいつも観客席を見て祖父祖母を探しています。野球の神様（？）が見に来てくれているかもしれないし、自分が活躍している所を見せてあげたいからです。

### 私のおばあちゃん

義務教育学校八年 鈴木さくら



鈴木 さくら さん  
(小 今 戸)

私には自慢のおばあちゃんがいいます。家事や畑仕事、パッチワークなんかもチョチョイのチョイなのです。

そんな私の自慢のおばあちゃんももう今年で七十五歳。体も心もよゆうも無くなってもおかしくはないはずですが、私のおばあちゃん「七十五歳だからとい

ても私の体はピンピンしとるよ。あなた達に甘えるのは、まだもう少ししたらだね。それまでは自分のできることを精一杯やるだけさ。」と、私に言ってきたことがありました。その日から私は長生きするおばあちゃんのことをずっと見守っていたいなと心から思いました。

### 私の親友

義務教育学校八年 三輪 陽菜



三輪 陽菜 さん  
(羽 立)

私のおばあちゃんの長所はこれだけではありません。でも全部書くとは作文からあふれ出してしまいます。残念だけど一つにしぼり込みます。それは、どんな願いも叶えてくれる某ロボットのような存在だ、というところです。畑でとれた野菜や手作りマスクなどを欲しがっている人に分けてあげているという話をおばあちゃんは得意そうに話してきます。最初の頃は適当に聞きながらだけだったけれど、最近は「すごい」という気持ちで自然に浮かんでくるようになりました。私も困っている人がいたらおばあちゃんのように助けてあげたいなと思えました。いつもなら照れくさくて言えな

いけれども伝えたい思いはたくさんあることをこの作文で届けることができたらいいと思います。最後に一言、「いつも本当にありがとう。これからもよろしく。ずっと長生きして、おいしい野菜を食べさせてね。」

私のおばあさんは明るくて、優しく、お茶目な人です。私はよくおばあさんに悩みやちよつとした愚痴をきいてもらいます。それに対して、「いいね、いいね。私も昔、そんな悩みあつたなあ。ま、大人になったらなつかしいいい思い出になるよ。」と、のほほんとしたアドバイスが返ってきます

す。真面目にきいているとはあまり思えませんが、気づくと私も、「ま、いいか。」と、のほほんとした気持ちになっているのは不思議だなとも思います。私とおばあさんはカラオケが好きで、よく二人で行きます。おばあさんの影響で小学二、三年の頃中島みゆきさんなどのいわゆる懐メロが好きだった私は、カラオケの採点機能を使って、おばあさんと競うのがお決まりです。いつも自信满满で歌う私ですが、一度しか勝ったことがありません。おばあさんは、歌が上手いのです。十八番の歌だと余裕で九十点以上がでてしまいます。勝った時にみせる、ドヤ顔は少し鼻に付きますが、どう頑張ってもおばあさんには叶いません。おばあさんは歌だけでなく料理も上手です。おばあさんの料理で好きなのは鶏肉をコーラで煮た、コーラ煮。あまり聞き馴染みのない料理だとは思いますがこれが本当に美味しいんです。おばあさんの料理はおばあさんにしかつくれないあたかさをを感じる味が

します。おばあさんの料理は食べる人を笑顔にできます。それはその料理をつくっているおばあさんが人を笑顔にできるからだと思います。私はおばあさんの事を「とんか」と呼びます。これはとんかの友達と呼んでいるニッケネームです。私がとんかをニッケネームで呼ぶのは友達くらい親しい存在だから、ワガママな私だけど、これからも仲良しでいようね。

## おじいちゃん

## おばあちゃん

これからも、

## 末永く、お元気で

## お過ごしください！

